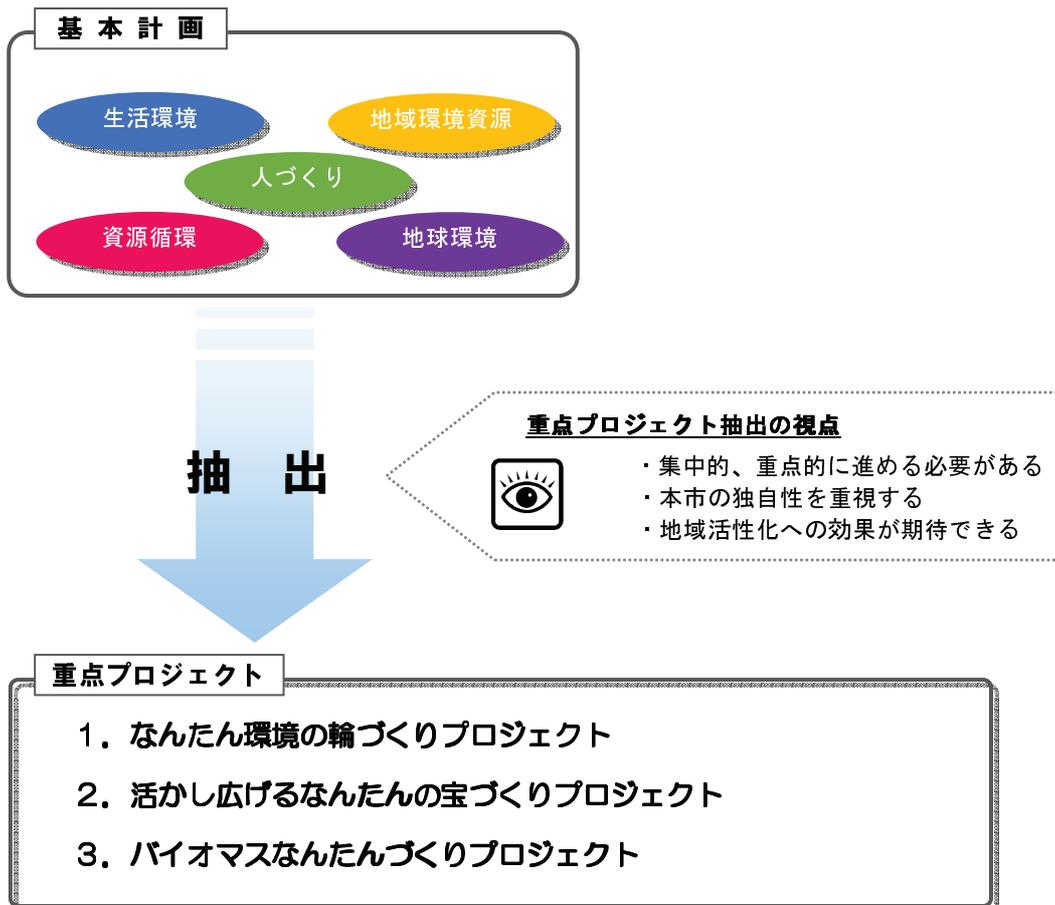




第5章 重点プロジェクト

重点プロジェクトは、本市の現状・課題などを踏まえ、第4章の基本計画に挙げた取り組みの中で、特に集中的・重点的に進める取り組みを示します。ここでは3つのプロジェクトを設定し、優先的に取り組むことで基本計画全体の推進を図ります。



重点プロジェクト抽出の流れ



1 なんたん環境の輪づくりプロジェクト

■ 関連する環境保全施策

- ・ 環境に関する情報を収集、提供し、意識向上を促します
- ・ 環境保全活動を担う人材や団体の育成・支援を推進します
- ・ 環境活動のための協働体制づくりを推進します
- ・ 環境教育・環境学習・体験活動を推進します



■ 目的・効果

環境保全活動を担う人材育成と様々な主体による取り組みの連携、取り組みの広域的な展開

- ・ 本市における環境情報については、主に市の取り組みについて、市のホームページや広報なんたんを通じて発信していますが、市内の環境関連団体や地域における取り組みについてはそれぞれの団体が個別に発信している状況です。このため、これらの情報は関係者以外において十分に共有されることが少なく、優良な情報や取組事例であっても市内への伝播が困難な状況にあります。
- ・ 本計画で対象としている環境問題は大変幅が広く、市だけで取り組みを実現することは困難な内容となっており、市民や事業者との協働によって計画を進めることが可能となります。しかしながら、現状では各主体が協働して取り組みの調整・推進を図る場が十分に整備できていない状況です。
- ・ これらの現状を踏まえ、重点プロジェクトとして、市内をはじめとした環境関連情報について発信・共有するための場の整備を行うとともに、市民、事業者、市の三者が協働して計画の推進を図るための推進母体の構築に取り組みます。
- ・ さらに、これらの基盤を活用し、人づくりの取り組みの充実、さらに団体や地域での取り組みについて、市全域への拡大を図ります。



稲刈り体験の様子



緑の少年団による植樹の様子



■ 取り組む項目

①環境情報の輪の構築

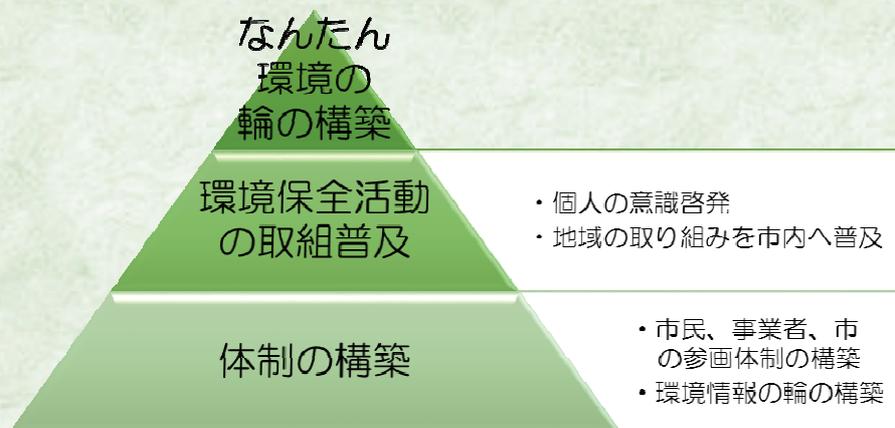
- ・市は、環境関連情報についてのインターネット情報サイトの整備を行います。
- ・具体的には、以下の情報を整理することで、南丹市の環境情報についての総合的な窓口となり、市や市民、環境関連団体、事業者などが情報の入手、発信を行うなど、情報交流の軸となる役割を担います。
 - 市の環境行政についての計画や取組内容
 - 市内における地域や環境関連団体、事業者などの取組事例
 - 環境関連イベントの開催情報
 - 環境に関連する法律や条例、計画。一般の優良サイトなどのリンク 等

②市民・事業者・市の参画体制の構築

- ・市は、環境基本計画の推進母体として、市民、事業者、市が参画する団体（南丹市環境パートナーシップ会議）を立ち上げます。団体は本計画の推進体制の中で明確な位置づけを行い、実践的な取り組みの企画・実施や各種情報の共有、交換による主体間の連携を図っていきます。

③「我」から「輪」へ 環境保全活動の取組普及の推進

- ・市および南丹市環境パートナーシップ会議が中心となり、市内における地域の取り組みや環境関連団体における取り組みなどについて企画・実施していきます。
- ・市および南丹市環境パートナーシップ会議は、関係する団体や大学などと協力家庭を対象とした環境啓発冊子や自然観察会、地域や事業者を対象とした南丹市地域づくり出前講座の開催などを通じて個人の環境意識の啓発に努めます。
- ・市内における優良な取り組みについて、市が環境関連情報サイトなどを通じて市内に情報を発信するとともに、南丹市環境パートナーシップ会議が企画・実施を通じて他の地域への拡大を図り、個別に取り組まれている南丹市の環境保全活動の市内他地域への展開を図ります。



なんたん環境の輪づくり考え方



2 活かして広げるなんたんの宝づくりプロジェクト

■ 関連する環境保全施策

- ・環境教育・環境学習・体験活動を推進します
- ・環境に関する情報を収集、提供し、意識向上を促します
- ・環境保全活動を担う人材や団体の育成・支援を推進します
- ・環境活動のための協働体制づくりを推進します
- ・山林・川・里の自然環境を保全します
- ・生物多様性を保全します
- ・伝統ある歴史・文化を伝承します
- ・美しい景観を保全します
- ・地域資源を活かした産業・観光を振興します



■ 目的・効果

地域の自然や歴史・文化、保全活動を地域内外に広げる人材の育成、生物多様性保全に向けた取り組みの普及啓発

- ・本市の美山地域は、本市を代表する河川である由良川や、由良川の水源地域に広がる芦生の森など、原生的な自然を有しており、希少な動植物の生息地となっています。また、昔ながらのかやぶき民家が群在しており、こうした豊かな自然や自然と寄り添う暮らし、伝統文化などが評価され、美山地域全域が国定公園に、かやぶき民家が群在する北集落が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。

美山地域では、こうした地域の伝統文化と豊かな自然を生かしたまちづくり・地域活性化を目的として、地域の自治組織および事業者などによって構成される「南丹市美山エコツーリズム推進協議会」を設立、「南丹市美山エコツーリズム推進全体構想」を策定しており、地域資源を活かしたエコツーリズムに取り組んでいます。

- ・園部、八木、日吉地域においても、それぞれ地域の特性を活かした農林業や田舎暮らしをはじめとする様々な体験の取り組み、また、これらを行う人材の育成などを行っています。
- ・本市では生物多様性保全に向けた取り組みがあまり普及しておらず、今後は各地域で展開してきた多様な自然を保全する取り組みや、取り組みを通じた意識啓発などについて、生物多様性保全などの観点を含め、さらに充実していくことが求められています。
- ・これらの現況を踏まえ、重点プロジェクトとして、地域資源の活用および生物多様性保全に向けた取り組みの充実を目的に、ボランティアガイドの育成・活用や、農林水産業体験、身近な生物調査、様々な体験を盛り込んだツーリズムの実践、学校と連携した環境学習、インターンシップなどに取り組みます。



エコツーリズムの様子
(かやぶき職人体験)



■ 取り組む項目

①プロジェクト実施に向けた内容の検討と体制構築

- ・体験を行う場所や受け入れ民家の選定、連携を行う学校、企業や体験希望者との調整など、プロジェクト実施に向けた内容の検討と連携に向けた体制の構築を図ります。

②ボランティアガイドの育成・活用推進

- ・南丹市美山エコツアーリズム推進全体構想に基づき、「南丹市美山エコツアーリズムオープンカレッジ」を実施し、ガイドやコーディネーターなどの人材を育成します。
- ・南丹市地域づくり出前講座や達人バンクを活用した人材の育成を推進します。
- ・育成したガイドやコーディネーターを美山町自然文化村の河鹿荘やビジターセンター、かやぶきの里の情報発信館ゆらりなどの主要な情報発信施設に配置し、積極的な情報発信や取り組みを推進します。

③ツアーリズムの推進

- ・これまでの取り組みと併せて、国定公園に指定された芦生の森や大野ダム、かやぶきの里などを巡り、そこに根づく歴史・文化や自然に触れる取り組みを推進します。
- ・自然環境や動植物の生態、里のくらしとの関わりや、クマ剥ぎやナラ枯れ、シカの食害や地球温暖化の問題などについて、体験・学習する取り組みを推進します。
- ・身近な田んぼや里山に生息する生きものの観察や調査およびそれらの生きものと人とのつながりや食物連鎖などについて解説するツアーを推進します。

④学校と連携した環境学習やインターンシップなどの推進

- ・市内の小学校や南丹市美山エコツアーリズム推進協議会と連携して、地域の自然や歴史・文化、保全活動に触れる自然体験や見学などを推進します。
- ・インターンシップや研修などの受け入れを行い、かやぶきの里における取り組みの紹介やツアーリズムの実施などを通じて、環境に関する意識の醸成や地域との交流を深めます。



3 バイオマスなんたんづくりプロジェクト

■ 関連する環境保全施策

- ・ 環境教育・環境学習・体験活動を推進します
- ・ 環境に関する情報を収集、提供し、意識向上を促します
- ・ 環境活動のための協働体制づくりを推進します
- ・ 山林・川・里の自然環境を保全します
- ・ 地域資源を活かした産業・観光を振興します
- ・ 農林水産物の地産地消を推進します
- ・ 資源やエネルギーの有効活用を推進します



■ 目的・効果

環境にやさしく災害に強い循環型社会の構築、農林業や地域づくりとの連携による地域活性化

- ・ 本市では、家畜排せつ物の循環利用を目的に八木バイオエコロジーセンターを建設して以降、家畜排せつ物から、エネルギーや堆肥、液肥を利用する取り組みを進めています。また、家畜排せつ物だけでなく、食品廃棄物や木質バイオマス、水力など、地域の特性を活かした資源を地域のエネルギー源や環境に配慮した肥料、防災、地球温暖化対策などに利用しています。こうしたバイオマスを活用する取り組みが評価され、本市はバイオマス産業都市の選定を受けています。
- ・ 本市では「南丹市バイオマス産業都市構想」および「南丹市バイオマス活用推進計画」を策定しており、これらの構想・計画に基づき、地域資源利用の取り組みを進めるとともに、それらと農林業や地域づくりを有機的に連携させることにより、資源循環を通じた地域活性化が図られるよう、地域や事業のつながりを構築していくことが求められています。
- ・ これらの現況を踏まえ、重点プロジェクトとして、地域の特性を活かした地域資源利用の取り組みを推進するとともに、これらの取り組みを環境学習やインターンシップ、ツーリズムなどと併せて行うことで地域活性化を図り、環境にやさしく災害に強いまちづくりに取り組みます。



堆肥散布車



液肥を水田に流し込んでいる様子



■ 取り組む項目

①木質バイオマスの有効活用推進

- ・山林を多く有する日吉地域や美山地域において、森林の適切な整備や間伐、間伐材の搬入路などの整備を推進します。
- ・日吉地域や美山地域の豊かな木質バイオマスを木材や木質チップ、薪などとして積極的な利用を図ります。
- ・薪ストーブや木質ペレットストーブの購入助成を通じて、木質バイオマスの利用促進を図ります。
- ・チップ燃料の安定供給に向けて、チップ製造供給対象施設の拡大を検討します。
- ・ボイラの更新時期を迎える市内の大型施設や防災施設について、木質チップボイラの導入を検討します。
- ・国や府と連携して、日吉ダムや大野ダムに流入する流木の利活用について検討を行います。

②バイオディーゼル燃料（BDF）の利用推進

- ・南丹市全域や京都府、近隣市町と連携して、廃食用油の効率的な回収や精製、BDF 供給基地の整備を推進します。
- ・環境関連情報をまとめたサイトや広報誌などを通じて、BDF の活用に関する情報発信を行い、利用促進を図ります。
- ・行政機関や農林業での利用促進、また、一般販売に向けた取り組みなどを進めるとともに、これらの取り組みでつくられた地元産品の温室効果ガス排出削減量を J クレジット*として活用できる体制の構築を検討します。

③バイオガス発電に伴う副産物の利用推進

- ・環境関連情報をまとめたサイトや広報誌などを通じて、八木バイオエコロジーセンターやカンポリサイクルプラザ株式会社で行われているバイオガス発電の取り組みや、堆肥・液肥を利用した循環型農業に関する情報発信を行い、利用促進を図ります。
- ・バイオガス発電によって発生した消化液と二酸化炭素を利用して微細藻類の光合成を促し、培養した微細藻類を家畜の機能性飼料として利用する取り組みを推進します。
- ・企業や大学研究機関、市内養鶏農家、八木町農業公社が組織する協議会と連携し、微細藻類の利用促進に向けたシステムの構築を図ります。

④園部、八木地域におけるバイオマス資源化施設を利用した資源の複合利用の推進

- ・八木バイオエコロジーセンターやカンポリサイクルプラザ株式会社などのバイオマス資源化施設について、家畜排せつ物や生ごみなどの活用を充実させるとともに、木質バイオマスや工場からの食品残さ、下水汚泥など様々なバイオマスを利用できるよう、システムの構築を検討します。
- ・バイオマス資源化施設を、環境学習の場や災害時のエネルギー供給施設として活用を図ります。

※J クレジットとは、中小企業等の省エネ設備の導入や森林管理等による温室効果ガスの排出削減・吸収量をクレジットとして認証する制度のこと。クレジットの実施者は、クレジット売却益や地球温暖化対策への PR につながり、クレジットの活用者は、温室効果ガスの排出削減・吸収量を調整後温室効果ガス排出量の報告に活用することができます。



⑤農林業や地域づくりの連携推進

- ・美山地域で行われているエコツーリズムを通じた取り組みや人材育成、木質バイオマスを利用する取り組み、堆肥・液肥を利用した循環型農業を連携させ、地域が主体となった地域資源の活用を推進します。
- ・大学の学生を対象にバイオマス利用について学ぶ現地宿泊研修やインターンシップを実施するとともに、農産物のブランド化やツーリズムなど地域振興を目的としたプロジェクトを推進します。



取り組みのイメージ図
出典：南丹市バイオマス産業都市構想